

言語社会研究科

VIII 言語社会研究科

1. 言語社会研究科授業履修要綱

履修上の注意事項

- ① 本研究科で開設する授業科目及び単位数は、後出の講義表に示してある。
- ② 本研究科で開設する演習担当教員は、後出の表に示してある。
- ③ 1年度に毎週1時限の講義は4単位、2学期を通じて毎週1時限の講義は2単位、学期ごと毎週1時限の講義は1単位、1年度隔週1時限の講義は2単位とする。
- ④ 履修登録等の手続き及び時期については「I. 履修の手続きについて」を参照すること。
- ⑤ 履修登録は、登録した年度1年間に限り有効である。登録年度において不合格となった授業科目を次年度以降改めて履修する場合は、新たに履修登録をしなければならない。
- ⑥ 同一教員による同一の授業科目は、重複して履修できない。ただし、同一教員による同一の授業科目であっても、講義題目が異なっていれば履修できる。
- ⑦ 部門別、入学年度別、各課程の修了要件・履修方法等については、以下に示すとおりである。

1.1 履修方法

A 第1・第2部門共通

A-1. 履修方法（各年度共通）

(1) 修士課程の修了要件

修士課程の修了の要件は、2年以上在学し、32単位以上（演習8単位以上を含む）修得し、かつ、本研究科が行う学位論文審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、研究科規則の定めるところにより、特例として1年以上在学すれば、足りるものとする。

(2) 修士課程の履修

- ① 演習8単位以上及び講義と合わせて合計32単位以上修得しなければならない。
- ② 言語社会研究科の授業科目（演習を含む）のうちから、20単位以上履修しなければならない。
- ③ 他の研究科の授業科目（履修時に研究科等の指定がある科目を除く。また、社会学研究科の地球社会研究専攻に置かれるプロジェクト講義を履修する場合は、当該教員と面接してその承認を得なければならない）を履修することができる。
- ④ 第1部門の学生は第1部門の、第2部門の学生は第2部門の演習を主演習とする。
- ⑤ 「学芸員科目」のうち、「博物館概論」及び「博物館資料論」の単位のみ修了要件に算入できる。その他の科目は修了要件には含めない。
- ⑥ 「教職科目に関する科目」の単位は修了要件には含めない。

- ⑦ **第1部門のみ**：基礎講義区分の科目及び（授業科目としての）「文献演習」を人文基礎科目とし、そこから4単位（うち「文献演習」2単位）を必修とする。
- ⑧ **第1部門のみ**：入学試験において外国人留学生として受験した者は「専門日本語表現技法Ⅰ」を必修とする。
ただし、「専門日本語表現技法Ⅰ」の単位を修得できなかった者は「専門日本語表現技法ⅡA」又は「専門日本語表現技法ⅡB」の単位を修得すればよいものとする。（ただしこの「専門日本語表現技法Ⅰ」等の単位は必修としての「文献演習」の単位には算入されないの、それとは別に「文献演習」から2単位修得すること。）
- ⑨ インターンシップ（就業体験実習）を受けようとする者は、「就業体験実習」を履修登録する（履修登録は随時できる）。その実習期間は、原則として2週間（実質10日間、最低60時間程度）とする。個人的に財団、企業等のインターンシップに参加する予定で、その単位認定を希望する者は、所定の書式「就業体験実習単位認定申請書」により研究科に申請すること。研究科委員会で審議の上、単位認定の可否を決定する。
- ⑩ 「就業体験実習」の規定の単位を修得した上で、次年度以降にも同科目の履修を希望する者は、所定の様式「就業体験実習（重複履修）単位認定申請書」により研究科に申請すること。研究科委員会で審議の上、重複履修の可否を決定する。ただし可とされた場合でも、重複履修分の2単位は上記②の研究科内必修単位数（20単位）には算入されない。
- ⑪ 学部科目の履修（『学士課程ガイドブック』参照）
学部の学科又は部門に置かれる学部発展科目及び全学共通教育科目の発展科目のうち別に指定する授業科目を履修できるが、第1部門では4単位、第2部門では8単位を超えて修了要件に算入することはできない。

学部発展科目及び全学共通教育科目の発展科目のうち別に指定する授業科目

区分	指定する条件
学部発展科目	全ての科目 ※修了要件に含まれる。
全学共通教育科目の発展科目	『学士課程ガイドブック』開講科目一覧のナンバリングにおいて左から4番目の文字が「4」の科目 例 GU-X <u>4</u> X X-X ※修了要件に含まれる。
	英語以外の外国語の中級科目 ※修了要件に含まれない。

- ⑫ 外国人留学生等（日本語を母語としない者等）は、国際教育交流センターの日本語教育プログラムにおいて提供される日本語科目を履修することができる。ただし、修得した単位は修了要件には含まない（学部発展科目、全学共通教育科目の発展科目及び大学院科目を除く）。
- (3) 博士後期課程の修了要件**

博士後期課程の修了要件は、3年以上在学し、18単位以上（演習12単位以上を含む）修得し、かつ、本研究科が行う学位論文審査及び最終試験に合格すること。

ただし、在学期間に関しては、修士の学位を有する者であって、優れた研究業績をあげた者については、研究科規則の定めるところにより、特例として大学院に3年（修士課程に2年以上在学し、当該課程を修

了した者にあつては、当該課程における在学期間を2年とみなす)以上在学すれば、足りるものとする。

(4) 博士後期課程の履修

- ① 演習12単位以上、演習以外の授業6単位以上、合計18単位以上修得しなければならない。
- ② 他の研究科の授業科目(履修時に研究科等の指定がある科目を除く)を履修することができる。
- ③ 「学芸員科目に関する科目」のうち、「博物館概論」及び「博物館資料論」の単位のみ修了要件に算入できる。その他の科目は修了要件には含めない。
- ④ 「教職科目に関する科目」の単位は修了要件には含めない。
- ⑤ 「就業体験実習」の単位は修了要件には含めない。
- ⑥ 博士学位論文については、後出の表に示してある「博士学位申請論文執筆プロセス」を参照すること。

(5) 演習

- ① 演習は、在学中、春学期及び夏学期又は秋学期及び冬学期の区分ごとに1科目2単位以上を履修しなければならない。
- ② 演習の履修は、春学期及び夏学期又は秋学期及び冬学期の区分ごとに3科目6単位までとする。
- ③ 演習担当教員は、後出の表に示してある。
- ④ 演習の履修については、志望する演習指導教員から履修の承認を得たうえで、履修登録を行わなければならない。
- ⑤ 本研究科の演習のほかにも他研究科の副演習・副ゼミナール・第二演習を第2演習として履修できる。ただし、履修時に研究科等の指定がある科目を除く。
- ⑥ 第1部門の学生は第1部門の、第2部門の学生は第2部門の演習を主演習とする。

B 第 2 部 門

B-1. 日本語教育学位取得プログラム関連の授業の履修について

- (1) 演習(庵功雄、西谷まり、太田陽子、早川杏子)および日本語教育実習の履修については、第2部門の学生に限定する。
- (2) 演習(石黒圭、小磯花絵、柏野和佳子)については、第2部門の学生の履修を原則とする。
ただし、人数に余裕があり、かつ、面談の結果、研究テーマが演習の内容と密接な関係にあると認められた場合にのみ、第2部門の学生以外の履修を許可する。
- (3) その他の授業についても、履修制限を行う場合がある。
第2部門の学生以外が履修する場合、個別に担当教員に確認すること。

B-2. 日本語教育学位取得プログラム修了証について

- (1) 言語社会研究科修士課程の日本語教育学位取得プログラムを履修する学生で、同プログラムの指定授業科目(表1参照)を下記(2)の条件を満たして修得して課程を修了した者に対し、通常の学位記のほかに「日本語教育学位取得プログラム修了証」(以下、「修了証」という。)を授与する。同修了証は、2017年8月1日施行の「日本語教育機関の告示基準」を満たすことを証明できるものとする。
- (2) 同プログラムの授業科目は以下の表1の5分野から成る。各分野に定める単位数(「4. 言語と教育」にあつては、実習科目2単位以上4単位以内を含めること)を修得し、かつ、合計26単位(実習科目2単位以上4単位以内を含む)を修得することを、修了証授与の条件とする。

表1 日本語教育学位取得プログラム修了証授与に必要な分野別単位数

分野	単位数
1. 社会・文化・地域	4
2. 言語と社会	4
3. 言語と心理	4
4. 言語と教育	8(2~4)
5. 言語一般	6
合計	26(2~4)

() 内は実習単位数を内数で示す

- (3) 表1の各分野に属する具体的な科目の配当表は、各年度の春学期授業開始までに公示する。
 (4) 上記の(1)~(3)は2019年4月1日入学者より適用し、それ以前の入学者に遡及的には適用しない。

1.2 課程修了の認定（第1・第2部門共通）

(1) 学位の種類

修士課程又は博士後期課程の修了を認定された者には、修士（学術）又は博士（学術）の学位を授与する。

(2) 試験

- ① 課程修了の認定は試験による。試験には学科試験、論文試験及び最終試験の三種がある。
 ② 学科試験は、履修を届け出た授業科目について期日を定めて行う。

(3) 追試験

追試験を受けようとする者は、所定の用紙に医師の診断書その他必要な書類を添えて、所定の期日までに、言語社会研究科長あてに提出しなければならない。

(4) 成績評価及び認定

- ① 履修科目及び修士課程の学位論文の成績は、A⁺、A、B、C及びFの5段階とし、A⁺、A、B及びCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、演習及び博士課程コロキウムの成績は、E（合格）及びF（不合格）の2段階とする。
 ② 成績評価に付与するGP(Grade Point)及びGPAの算出については別に定める。
 ③ 博士後期課程在学者の学位論文の成績は、E(合格)及びF(不合格)の2段階とする。
 ④ 成績説明請求は学部と同様の様式と期間で実施し、提出先は言語社会研究科事務室とする。
 ⑤ 単位の認定は、本研究科委員会の議を経て学長が行う。

(5) 修士課程の学位論文審査及び最終試験

- ① 修士課程の所定の単位を修得して修士の学位を得ようとする者は、学位論文を提出しなければならない。ただし、それを提出する学期に在学するものとする。
 ② 学位論文は、2025年1月9日（木）までに、本研究科長あてに提出するものとする。
 ③ 学位論文は、主論文1部、写し3部及び要旨を記載したもの4部を提出しなければならない。
 ④ 学位論文審査及び最終試験は、2人以上の審査員によって行う。審査員は、提出論文の題目に基づき、本研究科委員会において選出する。
 ⑤ 最終試験は、第2年次の所定の期日までに学位論文を中心として、これに関連ある学科について口頭試問により行う。

(6) 博士後期課程在学者の学位論文審査及び最終試験

- ① 博士後期課程の所定の単位を修得して博士の学位を得ようとする者は、学位論文を提出しなければならない。ただし、論文審査期間及び最終試験が終了するまでの期間在学するものとする。

博士学位論文については、後出の表に示してある「博士学位申請論文執筆プロセス」及び「『課程博士』の学位請求論文審査手続き」を参照すること。

- ② 学位論文は、所定の日までに、本研究科長あてに提出するものとする。
- ③ 学位論文の提出期限は10月末及び2月末とする。ただし、博士後期課程の在学年数が3年を超えた者に限り提出期限を6月末日とすることができる。
- ④ 学期途中に学位論文を提出する者は、授業料分納願を提出しておくこと。なお、詳細については、申請期間前に学生支援課窓口にお問い合わせのこと。

(7) 学位論文計画書（プロポーザル）の提出

- ① 学位論文計画書（プロポーザル）は、博士後期課程第2年次以上に在学する者が提出できる。ただし、その審査期間中は在学するものとする。
- ② 学位論文計画書（プロポーザル）の提出時期等については、後出の表に示してある「博士学位申請論文執筆プロセス」を参照すること。

(8) 博士課程単位修得者の取扱い

- ① 学位論文計画書（プロポーザル）の審査に合格した上で、博士課程の所定の単位を修得し、かつ、博士後期課程に3年以上在学した者が退学する場合には、これを博士課程単位修得者と認める。
- ② 博士課程単位修得者が退学から5年以内に学位論文を提出したときは、学位規則第8条第2項に定める試験は免除する。
- ③ 博士課程単位修得者が退学から1年以内に学位論文を提出したときは、課程博士と同様の手続きによるものとし、学位論文審査手数料の納付は要しない。

(9) 休学について

- ① 一橋大学学則第10条に定める休学期間の計算方法は、学期を単位として行う。
- ② 提出期限について、4学期に対応し、学期ごとの受付を行う。

通年・春学期の休学願 － 2月末日

夏学期の休学願 － 4月末日

秋学期の休学願 － 8月中旬（秋学期開始日の1月前の応当日）

冬学期の休学願 － 9月末日

なお、学期途中からの休学を希望する場合は、希望の休学開始日で受け付けることができない場合があるため、なるべく早く言語社会研究科事務室へ相談すること。

復学願の提出期限は、休学願の提出期限に準じる。

退学願の提出期限は夏学期末日での退学は秋学期からの休学と同日、年度末（冬学期末日）での退学については、翌年度春学期からの休学の提出期限と同日とする。

- ③ 休学願の添付書類：休学の理由により下記a又はbを必ず添付すること。（cは必要に応じ）
- a 病気の場合 医師の診断書
- b 留学の場合 留学先大学等の受入承認書等
- c 特別な事情がある場合 様式任意

2. 言語社会研究科演習担当教員

第1部門

有賀 暢迪
安西 なつめ
井上 間従文
大久保 友博
尾方 一郎
川本 玲子
小泉 順也
小岩 信治
小関 武史
末永 絵里子
武村 知子
中井 亜佐子
中山 徹
星名 宏修
松原 真
* 安田 敏朗
八幡 さくら
吉田 真悟
寺尾 智史
湯浅 佳子

第2部門

庵 功雄
太田 陽子
西谷 まり
早川 杏子
松原 真
吉田 真悟
石黒 圭
▲ 柏野 和佳子
▲ 小磯 花絵

*の者は新規の主ゼミ、副ゼミを募集しない

▲の者は博士後期課程の主ゼミを担当しない

3. 言語社会研究科 講義表

最新の講義の開講状況については、授業時間割表で確認してください。

春：春学期開講 夏：夏学期開講 春夏：春学期及び夏学期開講

秋：秋学期開講 冬：冬学期開講 秋冬：秋学期及び冬学期開講

言語社会専攻：授業科目

第 1 部門

専門講義

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-B501-A		古典思想A		2		休講		
LG-B502-A	日本語	古典思想B	医学史入門：病の記録	2	講師	安西 なつめ	秋冬	
LG-B504-A	日本語	現代思想A	現代フランス哲学2024	2	講師	末永 絵里子	春夏	
LG-B505-A	日本語	現代思想B	モダンアートと／の哲学2024	2	教授	中山 徹	秋冬	
LG-B507-A		社会思想史		2		休講		
LG-B511-A		社会言語論A		2		休講		
LG-B512-A		社会言語論B		2		休講		
LG-B514-A	日本語	多言語社会論	アジア地域の多言語社会を学ぶ	2	非常勤講師	黄 海萍	秋冬	
LG-B515-A		言語政策論		2		休講		
LG-B521-A	日本語	西洋古典文学	古典のミメーシスとアダプテーション	2	講師	大久保 友博	秋冬	
LG-B523-A	日本語	英語圏文学A	小説の精読2024	2	教授	川本 玲子	秋冬	
LG-B524-A		英語圏文学B		2		休講		
LG-B526-A		ドイツ語圏文学		2		休講		
LG-B529-A		フランス語圏文学A		2		休講		
LG-B530-A		フランス語圏文学B		2		休講		
LG-B533-A	日本語	中国語圏文学A	近代中国の詩論を読む	2	非常勤講師	田中 雄大	秋冬	
LG-B534-A	日本語	中国語圏文学B	『回帰現実』を読む	2	教授	星名 宏修	秋冬	
LG-B537-A	日本語	日本文学	日本文学研究2024	2	教授	松原 真	秋冬	
LG-B541-A		音楽論A		2		休講		
LG-B412-A	日本語	音楽論B	近現代の日本の音楽史	2	非常勤講師	奥中 康人	冬	全学共通発展共修：音楽論（日本・東洋）
LG-B411-A	日本語	音楽論C	西洋音楽史入門	2	非常勤講師	高松 佑介	春夏	全学共通発展共修：音楽論（西洋）
LG-B545-A	日本語	美術論A	フランス近代美術作品研究	2	教授	小泉 順也	春夏	
LG-B546-A		美術論B		2		休講		
LG-B547-A		美術論C		2		休講		
LG-B549-A	日本語	表象芸術論	近代美学2024：自然と芸術の関係	2	講師	八幡 さくら	秋冬	
LG-B548-A		科学論A		2		休講		
LG-B463-A	日本語	科学論B	現代科学技術の展開	2	准教授	有賀 暢迪	春夏	全学共通発展共修：現代科学論
LG-B561-A	日本語	英語圏文化論A	文化・思想・歴史IV	2	教授	中井 亜佐子	春夏	
LG-B562-A		英語圏文化論B		2		休講		
LG-B564-A	日本語	ドイツ語圏文化論	ドイツ文化研究2024	2	教授	尾方 一郎	秋冬	
LG-B566-A	日本語	フランス語圏文化論	ノートルダムとフランス文化	2	教授	小関 武史	春夏	
LG-B568-A		スラブ語圏文化論		2		休講		
LG-B570-A		中国語圏文化論A		2		休講		
LG-B571-A		中国語圏文化論B		2		休講		
LG-B576-A		日本文化論A		2		休講		
LG-B577-A		日本文化論B		2		休講		

専門講義

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-B581-A	日本語	アジア文化論A	東アジアの文化を読む・知る・学ぶ	2	非常勤講師	王 媛	秋冬	
LG-B582-A		アジア文化論B		2		休講		
LG-B591-A		英語圏言語文化特別研究A		2		休講		
LG-B592-A		英語圏言語文化特別研究B		2		休講		
LG-B593-A		英語圏言語文化特別研究C		2		休講		
LG-B594-A		英語圏言語文化特別研究D		2		休講		
LG-B595-A		英語圏言語文化特別研究E		2		休講		
LG-B498-A	英語	Managing the SDGs - SIGMA Global Active Learning		2	講師	中谷 純江	秋	学部発展科目：Managing the SDGs - SIGMA Global Active Learning
LG-B499-A	英語	Responsible Digital Transformation - SIGMA Global Active Learning		2	教授	藤川 佳則	秋	学部発展科目：Responsible Digital Transformation - SIGMA Global Active Learning

基礎講義

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-C501-A		人文学特論A		2		休講		
LG-C502-A	日本語	人文学特論B	図像で読む科学・技術・医学の歴史	2	准教授 講師	有賀 暢迪 安西 なつめ	春夏	
LG-C503-A	日本語	人文学特論C	翻訳論	2	教授 教授 講師 講師	武村 知子 中井 亜佐子 大久保 友博 吉田 真悟	秋冬	
LG-C504-A		人文学特論D		2		休講		
LG-C505-A		人文学特論E		2		休講		
LG-C408-A		言語と社会A		2		休講		全学共通発展共修：アジア共同体論
LG-C512-A	日英	言語と社会B	言語と権力	2	協力講座・教授・社研	寺尾 智史	春夏	(社研) 言語と人権
LG-C513-A	日本語	言語と社会C	言語(学)と帝國的学知	2	非常勤講師	徳田 匡	春夏	
LG-C521-A	日本語	哲学入門	認識の諸問題—「知る」の探究—	2	講師	安西 なつめ	春夏	
LG-C403-A	日本語	論理学入門	言語の論理と記号論理	2	教授	尾方 一郎	秋冬	全学共通発展共修：論理学
LG-C523-A	日本語	社会言語学入門	社会言語学へのいざない	2	非常勤講師	荒井 幸康	春夏	
LG-C404-A	日本語	一般言語学入門	一般言語学概論	2	非常勤講師	吉田 夏也	春夏	全学共通発展共修：言語学
LG-C525-A	日本語	倫理学入門	倫理想2024	2	講師	末永 絵里子	秋冬	
LG-C409-A	日本語	レトリック論	レトリックの思想史	2	非常勤講師	東谷 優希	秋冬	全学共通発展共修：レトリック論
LG-C532-A	日本語	文学概論	litterae universales 2024	2	教授	武村 知子	春夏	
LG-C541-A		映像論A		2		休講		
LG-C413-A	日本語	映像論B	映画学入門2024	2	非常勤講師	片岡 佑介	春夏	全学共通発展共修：映像論
LG-C551-A		音楽論基礎A		2		休講		
LG-C552-A		音楽論基礎B		2		休講		
LG-C406-A	日本語	美術論基礎A	西洋美術史	2	非常勤講師	長尾 天	秋冬	全学共通発展共修：美術論(西洋)再履修不可
LG-C407-A	日本語	美術論基礎B	日本美術史	2	非常勤講師	石井 香絵	春夏	全学共通発展共修：美術論(日本・東洋)再履修不可
LG-C401-A	日本語	科学史入門	西洋科学史	2	准教授	有賀 暢迪	秋冬	全学共通発展共修：「自然科学史(西洋)」再履修不可

演習

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	(題目なし)	2	教授	尾方 一郎	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	研究発表2024	2	教授	星名 宏修	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	入出力訓練2024	2	教授	武村 知子	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	文献講読と研究発表	2	教授	中井 亜佐子	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	研究発表	2	教授	安田 敏朗	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	文献講読と研究発表	2	教授	中山 徹	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	音楽文化研究2024	2	教授	小岩 信治	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	フランス語文献講読と研究発表 (2024春夏)	2	教授	小関 武史	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	文献講読と研究指導	2	教授	川本 玲子	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	美術研究 (調査の方法論7)	2	教授	小泉 順也	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	日本近代文学研究2024	2	教授	松原 真	春夏	
LG-A801-S	日英	演習 (春夏)	美学理論の政治学	2	准教授	井上 間従文	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	科学技術史専門書講読2024	2	准教授	有賀 暢迪	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	文献講読と研究指導 (2024春夏)	2	講師	末永 絵里子	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	文献講読と研究指導	2	講師	大久保 友博	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	言語社会研究	2	講師	吉田 真悟	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	哲学・美学研究2024	2	講師	八幡 さくら	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	文献講読 (西洋近代) と研究発表2024春夏	2	講師	安西 なつめ	春夏	
LG-A801-S	日英	演習 (春夏)	文献講読	2	協力講座・教授・社研	寺尾 智史	春夏	社会学研究科大学院演習
LG-A801-S	日本語	演習 (春夏)	日本近世文学研究	2	連携教授 東京学芸大学	湯浅 佳子	春夏	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	(題目なし)	2	教授	尾方 一郎	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	研究発表2024	2	教授	星名 宏修	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	入出力訓練2024	2	教授	武村 知子	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	文献講読と研究発表	2	教授	中井 亜佐子	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	研究発表	2	教授	安田 敏朗	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	文献講読と研究発表	2	教授	中山 徹	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	音楽文化研究2024	2	教授	小岩 信治	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	フランス語文献講読と研究発表 (2024秋冬)	2	教授	小関 武史	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	文献講読と研究指導	2	教授	川本 玲子	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	美術研究 (研究の方法論7)	2	教授	小泉 順也	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	日本近代文学研究2024	2	教授	松原 真	秋冬	
LG-A801-S	日英	演習 (秋冬)	研究発表2024	2	准教授	井上 間従文	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	科学技術史論文分析2024	2	准教授	有賀 暢迪	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	文献講読と研究指導 (2024秋冬)	2	講師	末永 絵里子	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	文献講読と研究指導	2	講師	大久保 友博	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	言語社会研究	2	講師	吉田 真悟	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	哲学・美学研究2024	2	講師	八幡 さくら	秋冬	
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	文献講読 (西洋近代) と研究発表2024秋冬	2	講師	安西 なつめ	秋冬	
LG-A801-S	日英	演習 (秋冬)	文献講読	2	協力講座・教授・社研	寺尾 智史	秋冬	社会学研究科大学院演習
LG-A801-S	日本語	演習 (秋冬)	日本近世文学研究	2	連携教授 東京学芸大学	湯浅 佳子	秋冬	

第1部門の「第2演習」のナンバリングは「LG-A802-S」

文献演習

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-D470-A	日本語	文献演習 (ラテン語文法1)	文法基礎2024前期	2	非常勤講師	井阪 民子	春夏	全学共通発展共修: ラテン語初級I
LG-D471-A	日本語	文献演習 (ラテン語文法2)	文法基礎2024後期	2	非常勤講師	井阪 民子	秋冬	全学共通発展共修: ラテン語初級II
LG-D472-A		文献演習 (ラテン語A1)		2		休講		全学共通発展共修: ラテン語中級IA
LG-D473-A	日本語	文献演習 (ラテン語B1)	文献精読2024前期	2	非常勤講師	堀尾 耕一	春夏	全学共通発展共修: ラテン語中級IB
LG-D474-A		文献演習 (ラテン語A2)		2		休講		全学共通発展共修: ラテン語中級IIA
LG-D475-A	日本語	文献演習 (ラテン語B2)	文献精読2024後期	2	非常勤講師	堀尾 耕一	秋冬	全学共通発展共修: ラテン語中級IIB
LG-D476-A		文献演習 (ラテン語C1)		2		休講		全学共通発展共修: ラテン語上級IA
LG-D477-A	日本語	文献演習 (ラテン語D1)	文献精読2024前期	2	非常勤講師	井阪 民子	春夏	全学共通発展共修: ラテン語上級IB
LG-D478-A		文献演習 (ラテン語C2)		2		休講		全学共通発展共修: ラテン語上級IIA
LG-D479-A	日本語	文献演習 (ラテン語D2)	文献精読2024後期	2	非常勤講師	井阪 民子	秋冬	全学共通発展共修: ラテン語上級IIB
LG-D571-A	日本語	文献演習 (ラテン語E)	哲学・自然学原典講読2024	2	講師	安西 なつめ	秋冬	
LG-D480-A	日本語	文献演習 (ギリシア語文法1)	文法基礎2024前期	2	非常勤講師	堀尾 耕一	春夏	全学共通発展共修: ギリシア語初級I
LG-D481-A	日本語	文献演習 (ギリシア語文法2)	文法基礎2024後期	2	非常勤講師	堀尾 耕一	秋冬	全学共通発展共修: ギリシア語初級II
LG-D482-A		文献演習 (ギリシア語A1)		2		休講		全学共通発展共修: ギリシア語中級IA
LG-D483-A	日本語	文献演習 (ギリシア語B1)	文献精読2024前期	2	非常勤講師	井阪 民子	春夏	全学共通発展共修: ギリシア語中級IB
LG-D484-A		文献演習 (ギリシア語A2)		2		休講		全学共通発展共修: ギリシア語中級IIA
LG-D485-A	日本語	文献演習 (ギリシア語B2)	文献精読2024後期	2	非常勤講師	井阪 民子	秋冬	全学共通発展共修: ギリシア語中級IIB
LG-D486-A		文献演習 (ギリシア語C1)		2		休講		全学共通発展共修: ギリシア語上級IA
LG-D487-A	日本語	文献演習 (ギリシア語D1)	文献精読2024前期	2	非常勤講師	堀尾 耕一	春夏	全学共通発展共修: ギリシア語上級IB
LG-D488-A		文献演習 (ギリシア語C2)		2		休講		全学共通発展共修: ギリシア語上級IIA
LG-D489-A	日本語	文献演習 (ギリシア語D2)	文献精読2024後期	2	非常勤講師	堀尾 耕一	秋冬	全学共通発展共修: ギリシア語上級IIB
LG-D491-A	日英	文献演習 (英語A)	英語圏のフィルム・セオリー	2	准教授	井上 間従文	春夏	
LG-D501-A	日本語	文献演習 (英語B)	批評文献講読	2	教授	川本 玲子	秋冬	
LG-D502-A	英語	文献演習 (英語C)	クリエイティブ・ライティング	2	非常勤講師	Jeremy Harley	春夏	全学共通発展共修: 作文ワークショップ (上級)
LG-D401-A	日本語	文献演習 (ドイツ語A)	近代ドイツ語文獻講読 2024WS	2	教授	尾方 一郎	秋冬	全学共通発展共修: ドイツ語上級A
LG-D402-A		文献演習 (ドイツ語B)		2		休講		全学共通発展共修: ドイツ語上級B
LG-D403-A		文献演習 (ドイツ語C)		2		休講		全学共通発展共修: ドイツ語上級C
LG-D404-A		文献演習 (ドイツ語D)		2		休講		全学共通発展共修: ドイツ語上級D
LG-D405-A		文献演習 (ドイツ語E)		2		休講		全学共通発展共修: ドイツ語上級E
LG-D406-A		文献演習 (ドイツ語F)		2		休講		全学共通発展共修: ドイツ語上級F
LG-D407-A		文献演習 (ドイツ語G)		2		休講		全学共通発展共修: ドイツ語上級G
LG-D408-A		文献演習 (ドイツ語H)		2		休講		全学共通発展共修: ドイツ語上級H
LG-D409-A	日本語	文献演習 (ドイツ語J)	文献講読2024	2	講師	八幡 さくら	春夏	全学共通発展共修: ドイツ語上級J
LG-D410-A	日本語	文献演習 (ドイツ語K)	近代ドイツ語文獻講読 2024SS	2	教授	尾方 一郎	春夏	全学共通発展共修: ドイツ語上級K
LG-D411-A	ドイツ語	文献演習 (ドイツ語L)	文献講読 2024 SS	2	非常勤講師	ヴァーラント・ アインス	春夏	全学共通発展共修: ドイツ語上級L
LG-D412-A	ドイツ語	文献演習 (ドイツ語M)	文献講読 2024 WS	2	非常勤講師	ヴァーラント・ アインス	秋冬	全学共通発展共修: ドイツ語上級M
LG-D511-A		文献演習 (ドイツ語N)		2		休講		
LG-D512-A		文献演習 (ドイツ語O)		2		休講		
LG-D513-A		文献演習 (ドイツ語P)		2		休講		
LG-D514-A		文献演習 (ドイツ語Q)		2		休講		

文献演習

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-D413-A	日本語	文献演習 (フランス語A)	現代フランス語文献講読 2024	2	講師	末永 絵里子	春夏	全学共通発展共修: フランス語上級A
LG-D414-A	日本語	文献演習 (フランス語B)	近代フランス語文献講読 2024	2	教授	小関 武史	秋冬	全学共通発展共修: フランス語上級B
LG-D415-A		文献演習 (フランス語C)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級C
LG-D416-A		文献演習 (フランス語D)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級D
LG-D417-A		文献演習 (フランス語E)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級E
LG-D418-A		文献演習 (フランス語F)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級F
LG-D419-A		文献演習 (フランス語G)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級G
LG-D420-A		文献演習 (フランス語H)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級H
LG-D421-A		文献演習 (フランス語J)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級J
LG-D422-A		文献演習 (フランス語K)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級K
LG-D423-A		文献演習 (フランス語L)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級L
LG-D424-A		文献演習 (フランス語M)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級M
LG-D425-A		文献演習 (フランス語N)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級N
LG-D426-A		文献演習 (フランス語O)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級O
LG-D427-A		文献演習 (フランス語P)		2		休講		全学共通発展共修: フランス語上級P
LG-D521-A		文献演習 (フランス語Q)		2		休講		
LG-D522-A		文献演習 (フランス語R)		2		休講		
LG-D523-A		文献演習 (フランス語S)		2		休講		
LG-D524-A		文献演習 (フランス語T)		2		休講		
LG-D561-A		文献演習 (ロシア語A)		2		休講		
LG-D541-A	日本語	文献演習 (中国語A)	台湾人の自伝を読む1	2	教授	星名 宏修	春夏	
LG-D542-A	日本語	文献演習 (中国語B)	台湾人の自伝を読む2	2	教授	星名 宏修	秋冬	
LG-D551-A		文献演習 (朝鮮語A)		2		休講		
LG-D544-A		文献演習 (日本語A)		2		休講		
LG-D545-A		文献演習 (日本語B)		2		休講		
LG-D531-A	日本語	専門日本語表現技法 I	学術文章表現	2	非常勤講師	中村 かおり	春夏	
LG-D490-A	日本語	専門日本語表現技法 II A	学術口頭表現	2	非常勤講師	坂井 菜緒	春夏	全学共通発展共修: 日本 語上級 (学術口頭表現)
LG-D490-A	日本語	専門日本語表現技法 II A	学術口頭表現	2	非常勤講師	坂井 菜緒	秋冬	全学共通発展共修: 日本 語上級 (学術口頭表現)
LG-D532-A		専門日本語表現技法 II B		2		休講		
LG-D533-A		専門日本語表現技法 III		2		休講		

博士論文指導

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-H601-L	日本語	博士課程コロキウム (春夏)	Colloquium/Collegium Litterae Generales 2024	2	教授	武村 知子	春夏	
LG-H601-L	日本語	博士課程コロキウム (春夏)	博士論文指導2024春夏	2	教授	中山 徹	春夏	
LG-H601-L	英語	博士課程コロキウム (春夏)	博士論文指導2024-1	2	准教授	井上 間従文	春夏	
LG-H601-L	日本語	博士課程コロキウム (春夏)	博士論文指導2024春夏	2	准教授	有賀 暢迪	春夏	
LG-H601-L	日本語	博士課程コロキウム (秋冬)	Colloquium/Collegium Litterae Generales 2024	2	教授	武村 知子	秋冬	
LG-H601-L	日本語	博士課程コロキウム (秋冬)	博士論文指導2024秋冬	2	教授	中山 徹	秋冬	
LG-H601-L	英語	博士課程コロキウム (秋冬)	博士論文指導2024-2	2	准教授	井上 間従文	秋冬	
LG-H601-L	日本語	博士課程コロキウム (秋冬)	博士論文指導2024秋冬	2	准教授	有賀 暢迪	秋冬	

第2部門

日本語教育科目

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-E501-A	日本語	日本語教育学講義A	日本語教授法	2	教授	西谷 まり	秋冬	
LG-E502-A	日本語	日本語教育学講義B	日本と世界の留学生政策と実践	2	教授	太田 浩	秋冬	再履修不可
LG-E503-A	日本語	日本語教育学講義C	参加型学習法 概論	2	准教授	阿部 仁	春夏	再履修不可
LG-E504-A	日本語	日本語教育学講義D		2		休講		
LG-E505-A	日本語	日本語教育学講義E		2		休講		
LG-E506-A	日本語	日本語教育学講義F	「異なる文化」を受けとめる：パーソナル・リーダーシップ	2	准教授	阿部 仁	秋冬	再履修不可
LG-E507-A	日本語	日本語教育学講義G	日本語教育学概論	2	教授	太田 陽子	春夏	
LG-E414-A	日本語	日本語教育学講義H	「やさしい日本語」の諸相	2	教授 教授	庵 功雄 太田 陽子	春夏	全学共通発展共修： 現代日本語論
LG-E509-A	日本語	日本語教育学講義J	教室と学習のデザイン	2	准教授	早川 杏子	秋冬	
LG-E510-A	日本語	日本語教育学講義K	第二言語習得研究	2	非常勤講師	奥野 由紀子	秋冬	
LG-E511-A	日本語	日本語教育実習A	国内教育実習A	2	教授	西谷 まり	春夏	
LG-E512-A	日本語	日本語教育実習B	国内教育実習B	2	教授	太田 陽子	春夏	
LG-E513-A	日本語	日本語教育実習C	海外実習（ベトナム）	2	教授	西谷 まり	秋冬	
LG-E514-A	日本語	日本語教育実習D	海外実習（台湾：東呉大学）	2	教授	庵 功雄	秋冬	
LG-E515-A	日本語	日本語教育実習E		2		休講		

日本語学科目

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-F501-A	日本語	日本語学講義A	日本語語彙の学習・教育	2	非常勤講師	松下 達彦	秋冬	
LG-F408-A	日本語	日本語学講義B	日本語学概論	2	教授	庵 功雄	春夏	全学共通発展共修： 日本語研究入門
LG-F503-A	日本語	日本語学講義C	言語教育研究法概論	2	准教授	早川 杏子	秋冬	
LG-F504-A	日本語	日本語学講義D	コーパス分析の基礎	2	非常勤講師	中俣 尚己	夏	
LG-F505-A	日本語	日本語学講義E	日本語教育文法概論	2	教授	太田 陽子	秋冬	

比較文化学科目

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-F511-A	日本語	比較文化学講義A	日本文学を考える2024	2	教授	松原 真	春夏	
LG-F512-A	日本語	比較文化学講義B	アイデンティティと言語教育	2	講師	吉田 真悟	春夏	

演習

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-A803-S	日本語	演習（春夏）	日本語学・応用言語学研究	2	教授	庵 功雄	春夏	
LG-A803-S	日本語	演習（春夏）	教育学・日本語教授法	2	教授	西谷 まり	春夏	
LG-A803-S	日本語	演習（春夏）	文法教育・教材研究	2	教授	太田 陽子	春夏	
LG-A803-S	日本語	演習（春夏）	言語習得研究	2	准教授	早川 杏子	春夏	
LG-A803-S	日本語	演習（春夏）	日本近代文学研究2024	2	教授	松原 真	春夏	
LG-A803-S	日本語	演習（春夏）	言語社会研究	2	講師	吉田 真悟	春夏	
LG-A803-S	日本語	演習（春夏）	文章・談話・表現研究	2	連携教授 国語研究所	石黒 圭	春夏	
LG-A803-S	日本語	演習（春夏）	計量的会話研究	2	連携教授 国語研究所	小磯 花絵	春夏	
LG-A803-S	日本語	演習（春夏）	語彙・辞書研究	2	連携准教授 国語研究所	柏野 和佳子	春夏	

演習

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-A803-S	日本語	演習(秋冬)	日本語学・応用言語学研究	2	教授	庵 功雄	秋冬	
LG-A803-S	日本語	演習(秋冬)	教育学・日本語教授法	2	教授	西谷 まり	秋冬	
LG-A803-S	日本語	演習(秋冬)	文法教育・教材研究	2	教授	太田 陽子	秋冬	
LG-A803-S	日本語	演習(秋冬)	言語習得研究	2	准教授	早川 杏子	秋冬	
LG-A803-S	日本語	演習(秋冬)	日本近代文学研究2024	2	教授	松原 真	秋冬	
LG-A803-S	日本語	演習(秋冬)	言語社会研究	2	講師	吉田 真悟	秋冬	
LG-A803-S	日本語	演習(秋冬)	文章・談話・表現研究	2	連携教授 国語研究所	石黒 圭	秋冬	
LG-A803-S	日本語	演習(秋冬)	計量的会話研究	2	連携教授 国語研究所	小磯 花絵	秋冬	
LG-A803-S	日本語	演習(秋冬)	語彙・辞書研究	2	連携准教授 国語研究所	柏野 和佳子	秋冬	

第2部門の「第2演習」のナンバリングはLG-A804-S

博士論文指導

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-H603-L		博士課程コロキウム(春夏)		2		休講		
LG-H603-L		博士課程コロキウム(秋冬)		2		休講		

学芸員資格取得必修科目

学芸員科目

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-I511-A	日本語	生涯学習概論	生涯学習概論	2	非常勤講師	菅井 薫	春夏	
LG-I501-A	日本語	博物館概論	博物館概論	2	教授	小泉 順也	春夏	
LG-I502-A	日本語	博物館資料論	博物館資料論	2	准教授	有賀 暢迪	春夏	
LG-I503-A	日本語	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	准教授	有賀 暢迪	秋冬	
LG-I504-A	日本語	博物館展示論	博物館展示論	2	教授	小泉 順也	秋冬	
LG-I505-A	日本語	博物館経営論	博物館経営論	2	非常勤講師	林 容子	春夏	
LG-I506-A	日本語	博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	准教授	有賀 暢迪	秋冬	
LG-I507-A	日本語	博物館教育論	博物館教育論	2	非常勤講師	端山 聡子	秋冬	
LG-I508-A	日本語	博物館実習Ⅰ(学内実習)	博物館実習	1	非常勤講師	増野 恵子	冬	
LG-I509-A	日本語	博物館実習Ⅱ(学内実習)	博物館実習	1	教授	小泉 順也	秋冬	
LG-I510-A	日本語	博物館実習Ⅲ(学外実習)	博物館実習	1	教授 准教授	小泉 順也 有賀 暢迪	秋冬	

就業体験実習

ナンバリング	教授言語	授業科目	講義題目	単位数	職名	担当者名	学期	専修・読み替え科目等/備考
LG-J520-A	日本語	就業体験実習	就業体験実習2024	2	教授	中山 徹	冬	

4. 学芸員の資格について

学芸員は博物館・美術館などの職員として、資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業に携わる専門的職員である。下記の科目の単位を修得することにより学芸員の資格を得ることができる。

必修科目表

(下記第3欄中の博物館概論及び博物館資料論以外は、修了要件には算入されない)

第1欄	第2欄	第3欄	第4欄	第5欄
博物館法施行規則 第1条に掲げる科目	第1欄の科目 の単位数	第1欄に対応する 言語社会研究科開講科目	第3欄の科目 の単位数	備考
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
博物館概論	2	博物館概論	2	
博物館資料論	2	博物館資料論	2	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	博物館展示論	2	
博物館経営論	2	博物館経営論	2	
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
博物館教育論	2	博物館教育論	2	
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	1	
		博物館実習Ⅱ	1	
		博物館実習Ⅲ	1	
計	19		19	

注1：学芸員資格の取得希望者は、年度始めの「学芸員資格のためのオリエンテーション」に出席すること。オリエンテーションの開催日時等詳細については、言語社会研究科事務室掲示板または言語社会研究科時間割で確認すること。

注2：授業実施上の都合により、希望者が多い場合には選考の上履修者を決定する。

注3：博物館実習Ⅲを履修する者は、大学で行う事前の説明会ならびに事後の報告会に出席すること。

注4：博物館実習Ⅲを履修する者は、博物館概論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館教育論のうち少なくとも5科目(10単位)を履修済みであること。

注5：博物館実習Ⅲを履修する者は、博物館実習Ⅰ、博物館実習Ⅱの少なくとも1科目(1単位)を履修済みであること。

注6：博物館資料保存論、博物館展示論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館教育論を履修する者は、博物館概論と博物館資料論の内の少なくとも1科目(2単位)を、履修済みか履修中であることが望ましい。

注7：学芸員の資格自体は上記の必修科目の履修によって認められるが、実際には歴史学、民俗学、考古学、美術史、視覚文化など、各施設の目的に添った専門性が問われることになるので、十分注意すること。

注8：博物館法施行規則の一部改正が平成24年4月1日に施行されたことに伴い、言語社会研究科規則も改正された。平成24年4月1日前までに取得した旧科目及び単位の読み替えについては、原則として認めない。ただし、他大学で修得した生涯学習概論(同一の科目名で履修した場合に限る)は、大学名を明記した上で「学芸員に関する科目の単位修得証明書」に記載できるものとする。

※学芸員の資格取得手続き

上記単位を取得した者で、資格証明が必要な者は大学院言語社会研究科に対し「学芸員に関する科目の単位修得証明書」

の発行を申請すること。

その際は、CELSの成績修得状況画面のハードコピーを持参すること。

なお、複数の大学で履修を検討している場合は、言語社会研究科事務室に一報を入れること。

言語社会研究科事務室 lan-km@ad.hit-u.ac.jp

6. 言語社会研究科規則

(目的)

第1条 この規則は、一橋大学学則（平成16年規則第2号。以下「学則」という。）中、各研究科において定めるように規定されている事項、一橋大学学位規則（平成16年規則第72号。以下「学位規則」という。）及び一橋大学大学院言語社会研究科（以下「本研究科」という。）において必要と認める事項について定めることを目的とする。

(課程)

第2条 本研究科に、博士課程を置き、修士の学位を与える課程（以下「修士課程」という。）及び修士の学位を得た者に対して博士の学位を与える課程（以下「博士後期課程」という。）に区分する。

(部門)

第3条 本研究科に、第1部門（言語社会部門）、第2部門（日本語・日本文化部門）を置く。

2 前項の第2部門（日本語・日本文化部門）を、日本語教育学位取得プログラムと称する。

3 修士課程第1部門は、言語と社会の間の相互関係に焦点をあて、言語及びその関連領域にある諸文化の研究を行い、深い人文的教養を持った高度専門職業人を養成することを目的とする。第2部門は、言語・社会・文化をめぐる現代的な諸問題の解明を目指すとともに、専門性と実践力を兼ね備えた、日本語研究・教育者を養成することを目的とする。

4 博士後期課程第1部門は、より高度な専門性と幅広い学際性を身につけた独創的な研究者を養成することを目的とする。第2部門は、国際的に活躍できる、日本語教育関連領域の研究者・教育者を養成することを目的とする。

(博物館に関する科目)

第4条 本研究科に、博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館に関する科目を開設する。

(修士課程の修了要件)

第5条 修士課程の修了要件は、2年以上在学し、32単位以上（演習8単位以上を含む。）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、学則第66条第1項ただし書及び同条第2項に基づき言語社会研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）の議を経て、在学期間の特例を認めることができる。

2 日本語教育学位取得プログラム履修者で、別に定める修了要件を満たした者については、同プログラム修了者として認定する。

3 前各項の規定にかかわらず、第20条の規定により本大学院に入学する前に修得した単位（学則第47条第1項及び同条第8項により入学資格を有した後、修得したものに限り。）を本研究科において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本研究科の修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、学則第66条第2項に基づき、1年を超えない範囲で在学したものとみなすことができる。ただし、当該課程に少なくとも1年以上在学するものとする。なお、この場合の科目の履修については、研究科細則に定める。

(博士後期課程の修了要件)

第6条 博士後期課程の修了要件は、3年以上在学し、18単位以上（演習12単位以上を含む。）を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文計画書審査に合格した上、本研究科が行う学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、学則第67条第1項ただし書に基づき研究科委員会の議を経て、在学期間の特例を認めることができる。

(長期にわたる教育課程の履修)

第7条 学生が標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨申し出た時は、学則第45条の2第1項に定めるところにより、研究科委員会の議を経て、これを認めることができる。

(科目及び単位数)

第8条 本研究科に開設する授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。

2 博物館に関する科目として開設する授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。

(履修方法)

第9条 授業科目の履修については、一橋大学大学院言語社会研究科細則（平成16年規則第105号。以

下「研究科細則」という。)に定めるところに従って単位を修得することとする。

(演習)

第10条 第5条及び第6条に規定する演習については、春学期及び夏学期又は秋学期及び冬学期の区分ごとに1科目以上3科目以下を履修しなければならない。

(履修科目の登録及び撤回)

第11条 学生は、履修しようとする科目を所定の期間内に登録しなければならない。ただし、登録した履修科目を所定の期間内に撤回できるものとする。

2 留学又は休学等のため所定の期日までに提出できない場合は、その事由が止んだ後遅滞なく、登録をしなければならない。

(履修科目の評価)

第12条 履修科目の評価は、科目担当教員が、試験、論文又は平常の成績により行う。

(試験)

第13条 学科試験は、期日を定めて行う。

2 前項のほか、研究科委員会が特に必要と認めた場合は、追試験を行うことができる。

(学位論文審査及び最終試験)

第14条 学位論文審査及び最終試験については、学則、学位規則及びこの研究科規則の定めるところによるほか、研究科細則に定める。

(修士課程の学位論文)

第15条 修士課程の所定の単位を修得して修士の学位を得ようとする者は、学位論文を提出しなければならない。ただし、それを提出する学期に在学するものとする。

2 学位論文は、所定の日までに、研究科細則の定めるところにより言語社会研究科長（以下「研究科長」という。）あてに提出するものとする。

(博士後期課程在学者の学位論文)

第16条 博士後期課程の所定の単位を修得して博士の学位を得ようとする者は、学位論文を提出しなければならない。ただし、論文審査期間中及び最終試験が終了するまで在学するものとする。

2 学位論文は、所定の日までに、研究科細則の定めるところにより研究科長あてに提出するものとする。

(博士後期課程在学者の学位論文提出資格)

第17条 前条の学位論文を提出しようとする者は、学位論文計画書を提出し、その審査に合格しなければならない。ただし、その審査期間中は在学するものとする。

2 学位論文計画書は、所定の日までに、研究科細則の定めるところにより研究科長あてに提出するものとする。

3 学位論文計画書の審査については、研究科細則に定める。

(博士課程単位修得者の認定)

第18条 学位論文計画書（プロポーザル）の審査に合格した上で、博士後期課程の所定の単位を修得し、かつ、博士後期課程に3年以上在学した者が退学する場合には、これを博士後期課程単位修得者と認める。

2 博士後期課程単位修得者の取扱いについては、研究科細則に定める。

(他の大学院等における修得単位の認定)

第19条 本研究科において、学則第62条の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、15単位を限度とする。

2 前項に基づく単位認定は、振替認定又は科目認定により行うこととし、その方法は別に定めるところによる。

(入学前の既修得単位等の認定)

第20条 本研究科において、学則第65条の2の規定により修得したものとみなすことのできる単位は、編入学、転入学等の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとし、前条により本研究科において修得したものとみなす単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

2 前項に基づく単位認定は、振替認定又は科目認定により行うこととし、その方法は別に定めると

ころによる。

(再入学)

第21条 学則第51条に基づき再入学を志願する者については、選考の上、再入学を許可することがある。

(補則)

第22条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に必要な事項は研究科委員会が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人法等の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成15年法律第117号）第2条の規定による廃止前の国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により設置された一橋大学の大学院言語社会研究科から承継された学生の履修については、なお従前の一橋大学大学院言語社会研究科規則及び一橋大学大学院言語社会研究科細則に規定する修了要件を適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成16年度以前に修士課程に入学した者は、第1部門（言語社会部門）に属するものとして取り扱う。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成17年度以前に修士課程に入学した者のうち、第2部門に属する者は、日本語教育学位取得プログラム履修者として取扱う。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附則

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 改正前の規則別表第2中に示された授業科目のうち、次表左欄に掲げる科目を履修した者は、同表右欄に掲げる科目を履修したものとして取り扱う。

旧規則上の授業科目	新規則上の授業科目
博物館学Ⅰ	博物館概論
博物館学Ⅱ	博物館資料論
博物館学Ⅲ	博物館経営論
博物館学Ⅳ	博物館情報・メディア論
視聴覚教育メディア論	

- 3 改正前の規則に示された授業科目に基づいて修得した単位は、改正後においても有効とする。

附則

- 1 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 改正前の規則に示された授業科目に基づいて修得した単位は、改正後においても有効とする。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和元年9月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正前の規則別表第2中に示された授業科目のうち、令和元年度までに次表左欄に掲げる科目を履修した者は、同表右欄に掲げる科目を履修したものとして取り扱う。

旧規則上の授業科目	新規則上の授業科目
教育と社会	生涯学習概論

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年7月7日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年9月10日から施行する。

附 則

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1（第8条第1項関係）

専攻名	部門	区分	授業科目名	単位数		
言語社会専攻	第1部門	基礎講義	人文学特論A	2		
			人文学特論B	2		
			人文学特論C	2		
			人文学特論D	2		
			人文学特論E	2		
			言語と社会A	2		
			言語と社会B	2		
			言語と社会C	2		
			哲学入門	2		
			論理学入門	2		
			社会言語学入門	2		
			一般言語学入門	2		
			倫理学入門	2		
			レトリック論	2		
			文学概論	2		
			映像論A	2		
			映像論B	2		
			音楽論基礎A	2		
			音楽論基礎B	2		
			美術論基礎A	2		
			美術論基礎B	2		
			科学史入門	2		
					専門講義	古典思想A
				古典思想B		2
				現代思想A		2
				現代思想B		2
				社会思想史		2
				社会言語論A		2
				社会言語論B		2
				多言語社会論		2
				言語政策論		2
				西洋古典文学		2
				英語圏文学A	2	
		英語圏文学B	2			

		ドイツ語圏文学	2
		フランス語圏文学A	2
		フランス語圏文学B	2
		中国語圏文学A	2
		中国語圏文学B	2
		日本文学	2
		音楽論A	2
		音楽論B	2
		音楽論C	2
		美術論A	2
		美術論B	2
		美術論C	2
		表象芸術論	2
		科学論A	2
		科学論B	2
		英語圏文化論A	2
		英語圏文化論B	2
		ドイツ語圏文化論	2
		フランス語圏文化論	2
		スラブ語圏文化論	2
		中国語圏文化論A	2
		中国語圏文化論B	2
		日本文化論A	2
		日本文化論B	2
		アジア文化論A	2
		アジア文化論B	2
		英語圏言語文化特別研究A	2
		英語圏言語文化特別研究B	2
		英語圏言語文化特別研究C	2
		英語圏言語文化特別研究D	2
		英語圏言語文化特別研究E	2
		Managing the SDGs - SIGMA Global Active Learning	2
		Responsible Digital Transformation - SIGMA Global Active Learning	2
	文献演習	文献演習	2
		専門日本語表現技法 I	2
		専門日本語表現技法 II A	2
		専門日本語表現技法 II B	2
		専門日本語表現技法 III	2
	学芸員科目	博物館概論	2
		博物館資料論	2
	演習	演習	2
		第2 演習	2 又 は4
	博士課程コロキウム	博士課程コロキウム	2
第2 部門	日本語教育科目	日本語教育学講義A	2
		日本語教育学講義B	2
		日本語教育学講義C	2
		日本語教育学講義D	2

		日本語教育学講義E	2
		日本語教育学講義F	2
		日本語教育学講義G	2
		日本語教育学講義H	2
		日本語教育学講義J	2
		日本語教育学講義K	2
		日本語教育実習A	2
		日本語教育実習B	2
		日本語教育実習C	2
		日本語教育実習D	2
		日本語教育実習E	2
	日本語学科目	日本語学講義A	2
		日本語学講義B	2
		日本語学講義C	2
		日本語学講義D	2
		日本語学講義E	2
	比較文化学科目	比較文化学講義A	2
		比較文化学講義B	2
	演習	演習 第2演習	2 2又は4
	博士課程コロキウム	博士課程コロキウム	2
	就業体験	就業体験実習	2
	派遣留学	派遣留学特別講義	1～

備考

単位数が「2又は4」又は「1～」とある科目については、授業開講形態に応じた単位を付与する。

別表第2（第8条第2項関係）

第1欄	第2欄	第3欄	第4欄	第5欄
博物館法施行規則 第1条に掲げる科目	第1欄の科目 の単位数	第1欄に対応する 開講科目	第3欄の科目 の単位数	備考
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
博物館概論	2	博物館概論	2	
博物館資料論	2	博物館資料論	2	
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	博物館展示論	2	
博物館経営論	2	博物館経営論	2	
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
博物館教育論	2	博物館教育論	2	
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	1	
		博物館実習Ⅱ	1	
		博物館実習Ⅲ	1	
計	19			

7. 言語社会研究科細則

(目的)

第1条 この細則は、一橋大学大学院言語社会研究科規則（平成16年規則第104号。以下「研究科規則」という。）中、別に定めるように規定されている事項及び研究科規則の施行に必要な事項について定めるものとする。

(修士課程の履修)

第2条 修士課程においては、演習8単位以上を含む、合計32単位以上を修得しなければならない。

2 言語社会研究科（以下「本研究科」という。）の授業科目（研究科規則別表第2におかれるものを除く。）のうちから、20単位以上を修得しなければならない。

3 本研究科の授業科目のうち、基礎講義区分の科目及び「文献演習」を人文基礎科目とする。人文基礎科目から4単位以上（内「文献演習」2単位以上）を修得しなければならない。

4 他の研究科の授業科目並びに一橋大学学部履修規則（平成16年規則第117号）別表に掲げる学部発展科目及び全学共通教育科目の発展科目のうち別に指定する授業科目を履修することができる。ただし、別に定めるものを除くものとする。

5 前項の規定により学部発展科目及び全学共通教育科目の発展科目を履修する場合には、4単位を超えて修了要件に算入することはできない。ただし、日本語教育学位取得プログラム履修者は8単位まで修了要件に算入することができる。

6 入学試験において外国人留学生として受験した者は、「専門日本語表現技法Ⅰ」を必修とする。ただし、「専門日本語表現技法Ⅰ」の単位を修得できなかった者は、「専門日本語表現技法ⅡA」又は「専門日本語表現技法ⅡB」の単位を修得すればよいものとする。

7 第3項及び第6項の規定は、日本語教育学位取得プログラム履修者には、適用しない。

(博士後期課程の履修)

第3条 博士後期課程においては、演習12単位以上、講義（研究科規則別表第2におかれる授業科目を除く。）6単位以上、合計18単位以上を修得しなければならない。

2 他の研究科の授業科目を履修することができる。ただし、別に定めるものを除くものとする。

(重複履修の制限)

第4条 同一教員による同一の授業科目を重複して履修することはできない。ただし、同一教員による同一の授業科目であっても、別に指定するものはこの限りではない。

(演習の履修)

第5条 演習は、春学期及び夏学期又は秋学期及び冬学期の区分ごとに1科目以上3科目以下を履修しなければならない。

2 演習を履修するためには、本研究科の演習担当教員に所定の日までに演習参加願を提出し承認を得なければならない。

3 他の研究科の演習を第2演習として履修することができる。ただし、別に定めるものを除くものとする。

(指導教員)

第6条 指導を志望する本研究科の教員に所定の日までに研究指導願を提出し承認を得なければならない。

2 修士課程又は博士後期課程の在学期間中における指導教員は、原則として同一とする。

(成績評価)

第7条 履修科目及び修士課程の学位論文の成績は、A+、A、B、C及びFの5段階とし、A+、A、B及びCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、演習、Managing the SDGs - SIGMA Global Active Learning、Responsible Digital Transformation - SIGMA Global Active Learning 及び博士課程コロキウムの成績は、E（合格）及びF（不合格）の2段階とする。

2 博士後期課程在学者の学位論文の成績は、E（合格）及びF（不合格）の2段階とする。

（GPAによる成績評価）

第7条の2 前に定める成績評価に付与するGP（Grade Point）及びGPA（Grade Point Average）の算出については、別に定める。

（単位の授与）

第8条 履修科目の合格者には、所定の単位を与える。

（他の大学院等における修得単位認定に係る手続き）

第9条 研究科規則第19条に基づき、他大学院等における修得単位の認定を受けようとする者は、所定の期日までに、研究科長あての所定の書式により申請するものとする。なお、申請書類の提出方法は、本研究科の定めるところによる。

（入学前の既修得単位等認定に係る手続き）

第10条 研究科規則第20条の規定に基づき、入学前の既修得単位等の認定を受けようとする者は、所定の期日までに、研究科長あての所定の書式により申請するものとする。なお、申請書類の提出方法は、本研究科の定めるところによる。

2 前項により認定された授業科目の成績は、E（合格）とする。

（単位の認定）

第11条 単位の認定は、言語社会研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）の議を経て学長が行う。

2 成績評価及びその訂正は、研究科委員会が行う。

（追試験）

第12条 追試験の許可は、研究科委員会の議を経て、研究科長が行う。

（再入学）

第13条 再入学は学年の始めに限りこれを許可する。再入学生として入学を希望する者の選考は、研究科委員会が行う。

（再入学願の提出）

第14条 再入学生として入学を希望する者は、再入学を希望する年度の前年度の1月末日までに、所定の書式により研究科長に願い出るとともに、所定の検定料を納付しなければならない。

（再入学生の入学許可）

第15条 学長は、第13条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者が、一橋大学学則（平成16年規則第2号。以下「学則」という。）第7条に定める入学手続きを完了した場合は、入学を許可する。

第16条 再入学生の入学年次は、1年次とする。

2 特別の事情があり教育上有益と認めるときは、研究科委員会の議を経て、前項の規定にかかわらず、再入学生の入学年次を、修士課程退学者の場合は2年次に、博士後期課程退学者の場合は2年次又は3年次にすることができる。

（再入学生の履修方法）

第17条 修士課程1年次に入学した再入学生及び博士後期課程1年次に入学した再入学生は、研究科規

則に規定する履修方法に従ってそれぞれ履修しなければならない。

- 2 第 16 条第 2 項により入学した者の、修業年限、在学年数、休学期間及び履修方法の取扱いについては、研究科委員会が別に定める。

(修士課程の学位論文の提出)

第 18 条 修士課程の所定の単位を修得して修士の学位を得ようとする者は、所定の日までに、学位論文及びその要旨を研究科長あてに提出するものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データによる提出を認めることができる。

(修士課程の学位論文の審査及び最終試験)

第 19 条 修士課程の学位論文審査及び最終試験は、2 名以上の審査員によって行う。審査員は、提出論文の題目に基づき、研究科委員会において選出する。

(最終試験)

第 20 条 最終試験は、第 2 年次の所定の期日までに、学位論文を中心として、これに関連ある学科について口頭試問により行う。ただし、学則第 66 条第 1 項ただし書及び同条第 2 項に該当する者については、研究科委員会の定めるところによる。

(学位論文計画書の提出)

第 21 条 学位論文計画書は、博士後期課程第 2 年次以上に在学する者が提出できる。

- 2 博士後期課程第 2 年次以上在学者が学位論文計画書審査を受けようとする場合は、所定の期日までに学位論文計画書を研究科長あてに提出するものとする。

- 3 前項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データによる提出を認めることができる。

(学位論文計画書の審査)

第 22 条 学位論文計画書の審査は、2 人の審査員によって行う。

- 2 学位論文計画書の審査員は、研究科委員会において選出する。

- 3 学位論文計画書の審査の期間は、原則として学位論文計画書の提出後 2 か月以内とする。

(博士後期課程在学者の学位論文の提出)

第 23 条 博士後期課程在学者の学位論文の提出期限は 10 月末日及び 2 月末日とし、学位論文及びその要旨、並びにそれらの電子データを研究科長あてに提出するものとする。ただし、博士後期課程の在学年数が 3 年を超えた者に限り提出期限を 6 月末日とすることができる。なお、参考論文、書評等を添付することができる。

- 2 学位論文の題目等所定の事項は、前項に定める提出期限の 4 週間前までに、研究科長に届け出なければならない。ただし、在学年数が 3 年を超えた者で休学から復学したものは、研究科長が認める日までに届け出ることとすることができる。

- 3 前 2 項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、電子データのみによる提出を認めることができる。

(博士後期課程在学者の学位論文審査及び最終試験)

第 24 条 博士後期課程在学者の学位論文審査及び最終試験は、3 名以上の審査員によって行う。審査員は、提出された論文の題目に基づき、研究科委員会において選出する。

- 2 学位論文審査の期間は、原則として学位論文提出期限後 4 か月以内とする。

- 3 最終試験は、学位論文審査終了後 1 か月以内に行う。

(博士後期課程在学者の学位授与の審議)

第 25 条 博士後期課程在学者については、各審査員の報告に基づき研究科委員会において審議し、投票により学位を授与すべきか否かを議決する。この議決には、委員の 2 分の 1 以上が出席し、出席者の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

2 研究科委員会が前項の議決をしたときは、研究科長は、速やかにその結果を文書により学長に報告しなければならない。

(試問の免除)

第 26 条 博士後期課程単位修得者で、第 22 条に定める学位論文計画書の審査に合格した者が、退学の年から 5 年以内に学位論文を提出したときは、一橋大学学位規則（平成 16 年規則第 72 号）第 8 条第 2 項に定める試問は免除する。

(論文提出による学位申請者の学位論文の提出)

第 27 条 学位規則第 5 条第 3 項の規定による学位申請者が学位論文を提出する場合は、同規則第 7 条に定めるもののほか必要な事項は、第 23 条の規定を準用する。

附 則

この細則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この細則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 18 年度以前の入学者については、改正後の第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 25 年 6 月 5 日から施行し、改正後の一橋大学大学院言語社会研究科細則の規定は、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

2 この規則による改正後の一橋大学大学院言語社会研究科細則第 21 条第 3 項の規定は、この細則の適用の日以後に博士の学位を授与された者について適用し、同日前に博士の学位を授与された者については、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2 改正前の一橋大学大学院言語社会研究科細則第 2 条第 3 項に規定する各授業科目系基礎講義の単位及

び同条第6項に規定する「専門日本語表現技法Ⅱ」の単位を修得した場合は、それぞれ改正後の本細則第2条第3項に規定する基礎講義の単位及び同条第6項に規定する「専門日本語表現技法ⅡA」の単位を修得したものとして取り扱う。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年7月7日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年9月10日から施行する。

附 則

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

「課程博士」の学位申請論文審査手続き

I. 学位論文提出資格：

学位論文計画書（プロポーザル）の審査に合格していること：合格年月日： 年 月 日

II. 論文題目提出：

学位申請論文提出の4週間前：論文題目提出日： 年 月 日

III. 論文題目承認：

題目提出後直近の定例研究科委員会（8、9月は開催しない）

IV. 学位申請論文提出日

- ① 6月末日（最終試験合格者の学位授与は11月末日）
- ② 10月末日（最終試験合格者の学位授与は翌年3月修了式の日）
- ③ 2月末日（最終試験合格者の学位授与は次年度7月末日）

審査スケジュール

論文題目届提出	論文提出 の4週間前まで	論文提出 の4週間前まで	論文提出 の4週間前まで
※学位申請論文提出	6月末	10月末	2月末
審査委員決定	7月第2水曜	11月第2水曜	3月第2水曜
論文（1次）審査報告	10月第2水曜	2月第2水曜	6月第2水曜
最終試験（公開口述試験）	10月末まで	2月末まで	6月末まで
研究科委員会投票	11月第2水曜	3月第2水曜	7月第2水曜
修了者発表	11月中旬	3月中旬	7月中旬
※修了日	11月末日	3月修了式の日	7月末日

※ 表中の期日は目安であり、若干前後することがあります。

※ 3年次生の学位申請論文の提出は、表中の10月末、2月末のみであり、6月末の提出はできません。

※ 在学年数が3年を超えた者は、6月末、10月末、2月末のいずれにも提出できます。

※ 在学年数が3年を超えた者で休学から復学した者は、論文題目の提出期限を研究科長が認める日とすることができます。

※ 7月及び11月の修了日は、末日が土日の場合は月の最後の平日になります。

※ 本人の責によらない真にやむを得ない事情があり研究科長の許可を得た場合に限り、オンライン提出を認めます。ただし、各提出期限翌月第2水曜日の前日の17:00までに下記の書類を持込または郵送にて事務室に提出してください。

★事務室に提出する書類

① 学位申請論文3部（簡易製本可）：提出日 年 月 日

② 論文要旨（4部）和文の場合・・・4,000字程度

英文の場合・・・A4判タイプ用紙ダブル・スペースで5枚程度

なお、論文要旨はデジタル・データ(WORD)を電子メールで<lan-km@ad.hit-u.ac.jp>宛に提出すること。

- V. 審査員の選出（研究科委員会） ⇒ 論文審査開始（審査期間は学位論文提出後4ヶ月以内）
- VI. 論文審査結果報告（研究科委員会）
- VII. 博士学位論文審査終了（1ヶ月以内に最終試験を実施）
- VIII. 最終試験（公開口述試問、日時は別途お知らせします）
- IX. 最終試験結果・合格の認定（研究科委員会）
- X. 学位記授与式（3月以外は、別途お知らせします）

★学位授与決定通知後に事務室に提出する書類

① 博士学位論文全文の電子データ (WORD) (*1)	電子メールで<lan-km@ad.hit-u.ac.jp> 宛に提出	学位授与 日まで
② 博士学位論文要旨の電子データ (WORD) (*1)		
③ 博士学位論文全文公開についてのアンケート (*2)		

*1 上表①・②の電子データは、章ごとに分割せず、それぞれひとつのWORDファイルにして提出すること。なお、①・②の電子データは、PDF/Aファイル形式に変換され、一橋大学機関リポジトリ (<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/ir/index.html>) により公開されます。

*2 上表③は、博士学位論文全文の公開の時期等の希望について尋ねるものです。様式は、学位授与決定通知の際に配布します。

また、博士学位論文全文の公開の時期や非公開とする場合の手続きについては、別紙『一橋大学機関リポジトリによる博士学位論文の公開について』を確認すること。

XII. 注意事項

- 論文題目届を提出する学期の始めから修了日までは在学している必要があります。
- 年度初め時点における通算の在学期間の残りが半年の者は、春学期及び夏学期を休学し、10月末に学位申請論文を提出すること。
例：X年4月初め時点での在学期間が残り半年で論文提出予定の者
X年4月春学期及び夏学期を休学し、X年秋学期から復学→題目届を提出し、10月末に論文提出→X+1年3月修了。
- 学位申請論文の提出を6月末及び2月末にする場合は、授業料の分納手続きを行うことをお勧めします。手続きを行わないと、学期中の授業料を全額納付する必要があります。
- 最終試験で合格と認定された学位申請者は、学位申請論文に必要な修正を加えたものを学位論文として提出します。要旨にも必要であれば修正を加えることができます。修正にあたっては審査員の了承を得て、相違点（要旨を含む）を一覧にした対照表を、研究科委員会の票決の1週間前までに言語社会研究科事務室に提出してください。
- 「学位申請論文」と「学位論文」は、規則上では後者に統一していますが、本手引きでは手続きの明確化のため区別して記しています。

博士学位論文執筆プロセス【休学中は該当しない】

2022年5月18日

① 3年次在学中に学位論文を提出する場合

年次	月	進行の内容
1年次	4月	<p>「論文指導教員の決定」</p> <p>※履修登録時の「演習指導教員」の承認をもって代える</p> <p>「研究指導計画書」 (様式1)</p> <p>① 学生が研究計画を記入する</p> <p>② 教員が研究指導計画を記入する</p>
	4月	「研究指導計画書」(1年次と同様)
2年次	随時	<p>「学位論文計画書(プロポーザル)」提出 表紙(様式2)</p> <p>デジタル・データ(WORD または PDF)を電子メールで<lan-km@ad.hit-u.ac.jp>宛に提出すること。</p> <p>プロポーザルの内容、提出方法等については、「プロポーザルの提出について」を参照。</p> <p>※ 研究科規則で、プロポーザルの審査期間中は在学するものと定められているので注意すること。プロポーザルの審査の期間は、原則として提出後2ヶ月以内とする。</p> <p>※ 毎月月末までに提出されたプロポーザルは、その翌月に審査開始される予定である。ただし、8・9月に審査の開始はないため、7月末にプロポーザルを提出した場合は、10月に審査開始となる。同様の理由から、秋学期からの休学を考えている学生は、5月末までに、春学期からの休学を考えている学生は、1月末までに提出すること。</p> <p>※ 合格者は博士課程単位修得者と認められ、「合格年度末日」の修了見込証明書の発行を申請することができる。</p> <p>※ プロポーザルは3年次にも随時提出可能。ただし、学位論文を提出する場合、論文題目提出以前に、プロポーザルの審査に合格していなければならない。また、プロポーザル合格後、年度内の退学を考えている場合には、退学手続きに一定の期間を要するため、遅くとも12月末までにプロポーザルを提出すること。</p>
	4月	「研究指導計画書」(1年次と同様)
3年次	随時	<p>「論文題目提出」 論文提出の4週間前まで (様式3)</p> <p>「学位論文」3部 提出 (『課程博士』の学位申請論文審査手続き参照)</p> <p>① 10月末日提出の場合、11月に審査委員会発足、提出後4ヶ月以内に論文審査を行う。論文審査合格者については、論文審査終了以降1ヶ月以内に最終試験(公開口述試問)を実施する。審査を経て合格後、翌年3月下旬に学位を授与する。</p> <p>② 3年次在籍中の2月末日までに提出することも可能だが、最終試験に合格した場合に学位が授与されるのは、次年度7月になる。</p>
	4月	「研究指導計画書」(1年次と同様)

② 博士後期課程在学年数が3年を超えた学生が学位論文を提出する場合

在学年数が3年を超えた者は、10月末日提出、2月末日提出に加えて、6月末日提出ができる。その場合は11月修了となる。「研究指導計画書」は1年次と同様に毎年提出する。

学位論文計画書（プロポーザル）の提出について

2022年3月9日
言語社会研究科

1. 提出時期

学位論文計画書（以下、プロポーザル）は、博士後期課程2年次以降、随時提出できる。詳細は本研究科の「博士論文執筆プロセス」を参照のこと。

2. 内容等

(1) プロポーザルの内容は、以下の通りとする。①～③の順序は任意。

- ① 論文の既執筆部分
- ② 先行研究との関係から見た論文の価値・独自性に関する説明
- ③ 既執筆部分が全体の構成の中でどのように位置づけられるかを説明した、論文全体の構成と目次
- ④ ビブリオグラフィ（文献表）

(2) プロポーザルの分量は、A4判で20枚程度を目安とする。ただし、上記①の量によっては、これより長くなってもかまわない。

(3) 引用や文献表記の書き方については、博士論文と同様のものとする。①の既執筆部分についても、プロポーザル単体で文献参照等が十分に指示されているように注意すること。

※ 引用や文献表記はそれぞれの学問分野の慣習に従えばよいが、判断に迷う場合には研究科HPの「紀要『言語社会』」の執筆関連書類の中にある「執筆要領補遺」を参考にすること。

3. 提出方法等

(1) 提出にあたっては、研究科HPにある「学位論文計画書（プロポーザル）表紙（様式2）」に必要事項を記入し、表紙とすること。なお、「論文指導委員名」には一人目は指導教員（主ゼミ教員）、二人目は副ゼミ（第2演習）教員を記入するが、副ゼミを履修していない場合は空欄でもよい。

(2) デジタル・データ(WORD または PDF)を電子メールで言語社会研究科事務室<lan-km@ad.hit-u.ac.jp>宛に提出すること。

- (3) 提出前には、年度当初に「研究指導計画書」を作成した指導教員に必ず連絡すること。同計画書を休学等で未作成の場合、プロポーザル提出より以前に作成すること。

4. 審査期間等

- (1) 審査期間等については本研究科の「博士論文執筆プロセス」に記載してある。
- (2) プロポーザル合格後、学位論文の提出から授与に至るまでのプロセスは、「『課程博士』の学位申請論文審査手続き」に書かれているので、その内容をよく理解すること。

5. 審査体制・基準

審査にあたっては、研究科委員会で選出された2名の審査員が、言語社会研究科博士後期課程のディプロマ・ポリシーに則った学位論文を執筆することが見込める計画であるかどうか、2.(1)の①から④の各項目にわたって判定する。このことに留意してプロポーザルを作成すること。